

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	川西市中学校給食センター整備・運営	階数	地上2F
建設地	兵庫県川西市久代3丁目7番地外の一	構造	S造
用途地域	準工業地域、指定なし	平均居住人員	36人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,205時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2021年5月20日
敷地面積	6,294㎡	作成者	柳瀬尚弘
建築面積	2,197㎡	確認日	2021年5月20日
延床面積	2,450㎡	確認者	柳瀬尚弘



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆☆

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.6**

Q1 室内環境 **Q1のスコア = 2.9**

Q2 サービス性能 **Q2のスコア = 2.9**

Q3 室外環境 (敷地内) **Q3のスコア = 2.2**

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 2.9**

LR1 エネルギー **LR1のスコア = 2.5**

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア = 3.3**

LR3 敷地外環境 **LR3のスコア = 3.1**

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 食材の搬入、配送用コンテナのトラックへの詰め込み、パッカー車によるごみの収集等、行い易いような計画とした。 敷地内ではできる限り緑化を行う 	<p>その他</p> <p>0</p>
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 内装工事に用いる材料のホルムアルデヒドの放散量は全てF☆☆☆☆とする。 換気量は建築基準法の1.4倍以上あり 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食エリアの床は長尺シート等を使用し、清掃やメンテナンスのし易さに配慮している。 ダクトは一般部以外はガルバリウムダクトを使用し、長寿命化の対策をした。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> BEIm=0.89 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 節水型便器等の節水システムを採用する。 LGSを用い、解体時は躯体と仕上材を容易に分別可能。 フロン・ハロンガスを回避。
	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩道沿いを中心に緑化を行い、修景に寄与。 建蔽率および容積率を抑えて圧迫感を緩和し、まちなみに調和するよう配慮している。
	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 見付け面積比を抑えられており、風下地域へ配慮している。 適切な量の駐車スペースの確保等を行い、交通負荷を抑制する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される